



○営業時間の変更について

- 令和4年8月31日(水) 15時まで営業
- 令和4年9月30日(金) 12時まで営業(仮決算棚卸のため)
- 令和4年10月3日(月) 13時より営業(仮決算棚卸のため)

○湯河原営農経済センター展示即売会

- 令和4年9月10日(土) 9:00~14:00
- キッチンカーも来ます!ぜひお越しください

○西部農機具センター出張サービスについて

- 繁忙期のため9月はお休みになります。

【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響します。必ず実施しましょう。

病害虫防除 8月下旬 ~ 9月上旬

- 黒点病 ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓
収穫30日前 4回 * 極早生に散布する際は、収穫日に気をつけてください。
- ミカンハダニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 収穫前日 1回 33ml/水100㍓
又は
ダニゲッターフロアブル 2,000倍 収穫前日 1回 50ml/水100㍓
- チャノキイロアザミウマ・カメムシ類 ヤノネカイガラムシ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回
又は ロディー乳剤(劇) 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫7日前 4回

浮皮軽減 8月下旬 ~ 10月中旬まで

- セルバイン 300倍を20~30日間隔で2~3回散布 333g/水100㍓

【中晩柑】

病害虫防除 基本防除はみかんの項参照

- * 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。

例) ジマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。

- かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
- ICボルドー412 50倍 2kg/水100㍓

※強風や降雨を伴う台風の前はコサイド3000(クレフノン200倍加用)又はICボルドー412を散布しましょう。

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。

- 初秋肥 9月中旬 **特選みかん配合 140kg/10a** (後期肥大促進・樹勢維持のため)

- * 10月下旬にもう1度施肥を行います。 **特選みかん配合 100kg/10a**

【湘南ゴールド】

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げシンニング（摘果）を行いましょう。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で2S以下を無くしまししょう。

仕上げシンニング (摘果)	9月20日	3.9cm~5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm~6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り

10月以降果実の肥大は緩慢となりますので、その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさをそろえましょう。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重たくなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょう。

施肥 中晩柑の項参照

【お茶】

施肥 秋肥 9月中旬

秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する10月~11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とします。

1回目 8月下旬 足柄茶配合 80kg/10a

2回目 9月中旬 足柄茶配合 80kg/10a

病害虫防除の徹底をお願いします。

病害虫防除 8月中旬 ~ 9月上旬

○チャハマキ ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 摘採7日前 **2回**
チャノコカクモンハマキ

【キウイフルーツ】

病害虫防除 9月上旬

○果実軟腐病 ロブラール水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫前日 4回

* スプラサイド水和剤（劇）の散布は、収穫60日前までの為散布できません。

施肥

9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a

後期肥大は、年間肥大の20%程度あります。

肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果が上がります。

【うめ】

夏季剪定 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施しまししょう。

樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響します。注意しまししょう。

※灰星病発生園での剪定について

- 結果枝（実のなる枝）に症状がある場合は、切り落とします。
- 被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。
- 樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝（緑枝など）を残し切り落とします。

剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄しまししょう。

【か き】

枝つり

着色を良くするために、果実の重みで下がった枝を吊り上げて、光を入れるようにしましょう。

病害虫防除

7月上旬～10月下旬 カメムシ（夜間に飛来と加害が多いので、夕方に防除しましょう）

○モスピラン顆粒水溶剤（劇） 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫前日 3回

○アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫3日前 3回

○テルスターフロアブル（劇） 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫3日前 2回

* カメムシは山林から飛来して加害します。園の一部に加害が集中する場合があります。園内を良く見回り、加害を発見した時は防除しましょう。（早生種では、加害時期と収穫時期が重なります。収穫前日数には十分に注意しましょう。）

【く り】

病害虫防除 9月（収穫7日前まで）

○クリシギゾウムシ アグロスリン水和剤（劇） 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫7日前 5回

* 早生品種との混植園では、早生品種を収穫した後に散布を行いましょう。

収 穫

自然に落果した物から速やかに採取しましょう。遅れると虫の被害が多くなります。

【野 菜】

タマネギ

播種の半月前までに、完熟堆肥（2kg/㎡）・苦土石灰（100g/㎡）を施し、よく土と混和しておきます。

未熟堆肥の施用は、**タネバエ**の発生を助長しますので避けましょう。

水稻の後に苗床を作ると病害虫の発生が少なくなります。9月20日～25日を目安とし早生は早めに、中生は遅めに種をまきましょう。育苗日数は55日～60日を目安とします。

病害虫防除

○タネバエ ダイアジノン粒剤5 300～500g/a 播種時または定植時 2回以内

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。